

平成 27 年 度

事 業 報 告 書

平成27年 4 月 1日から

平成28年 3 月31日まで

公益財団法人 科学技術広報財団

## 平成27年度事業報告

はじめに

公益財団法人科学技術広報財団（以下「財団」という）は、広く社会に対する科学技術の広報啓発と科学技術振興への寄与という使命及び社会的意義を認識し、その目的を達すべく中長期的な視野で事業を展開している。

平成27年度事業は、定款に基づき科学技術への関心や興味喚起及び科学知識の理解増進、科学技術に関する情報発信、科学知識普及、人材育成、広範な科学技術に関心と理解を深める広報活動に関する事業等を実施した。

平成27年度に実施した事業は以下の通りである。

### I. 全体運営

#### (1) 理事会の開催

- ・平成27年6月8日（月） 第8回理事会
  - ① 平成26年度事業報告書及び平成26年度決算報告書を承認した。
  - ② 第3回評議員会の招集について承認した。
  - ③ 理事長及び常務理事より職務執行状況を報告した。
  
- ・平成27年8月21日（金） 第9回理事会（書面）
  - ① 主たる事務所の移転に伴う定款変更について承認した。
  - ② 基本財産の処分について承認した。
  
- ・平成28年3月8日（火） 第10回理事会
  - ① 平成28年度事業計画書及び平成28年度収支予算書を承認した。
  - ② 理事長及び常務理事より職務執行状況を報告した。

#### (2) 評議員会の開催

- ・平成27年6月25日（木） 第3回評議員会
  - ① 議事録署名人を選出した。
  - ② 平成26年度事業報告書及び平成26年度決算報告書を承認した。
  - ③ 評議員2名の退任・選任を承認した。
  - ④ 理事1名の退任を承認した。
  
- ・平成27年8月21日（金） 第4回評議員会（書面）
  - ① 主たる事務所の移転に伴う定款変更について承認した。
  - ② 基本財産の処分について承認した。

(3) 役員・評議員及び職員の状態

① 役員の状態 (平成28年3月31日現在)

役職	定数 (人)	現員 (人)
理事長	1人	1人
専務理事	1人	0人
常務理事	2人以内	1人
理事	5人以上12人以内	11人 (非常勤8人・常勤3人) (うち、理事長1名及び常務理事1名)
監事	3人以内	2人

② 評議員の状態 (平成28年3月31日現在)

定数	現員 (人)
5人以上12人以内	11人

③ 職員の状態 (平成28年3月31日現在)

区分	職員数 (人)
本部事務局	5人
新潟県立自然科学館	8人
神戸市立青少年科学館	3人
計	16人

④ 役員の変動

退任		就任	
退任日	氏名	就任日	氏名
平成27年 6月8日	間宮 馨		

⑤ 評議員の変動

退任		就任	
退任日	氏名	就任日	氏名
平成27年 3月31日	加藤 善一		
平成27年 6月25日	鈴木 侃	平成27年 6月25日	川端 和明 深谷 恒美

(4) 広報活動

最新の科学及び技術に関するトピックスを提供するほか、科学技術に関わる法人・団体とのネットワークを充実させることにより、ホームページ及びWEBを通じた財団広報活動の活性化を図った。

## (5) その他

- ・平成27年9月に主たる事務所を文京区湯島三丁目31番6号 大塚ビルディングに移転した。
- ・平成27年12月7日に内閣府による立入検査を受けた。

## II. 事業

### 1. 科学技術の広報に関する調査研究及び刊行物等の編集及び頒布

#### (1) 科学ポスターの企画・作成及び提供

最新の科学研究成果への興味喚起及び知識の理解増進を目的として、山中伸也博士の総合監修による科学ポスター「これが、iPSの通る道。」を制作し頒布を開始した。

また、大村智博士のノーベル生理学・医学賞受賞を機に科学ポスター「人類を疾病から救う微生物の役割」を制作し頒布を行った。

事業の発展を図るため、Amazon、エデュ・タウンへの出店を継続。また、書店、科学館及び大型科学企画展事業者などの販売委託機関に対し、最新の商品情報（パンフレット）の提供を行い拡販に努めた。

- ① 売上件数 : 3,803件
- ② 売上総枚数 : 82,000枚
- ③ 取扱店舗数 : 科学館・博物館ミュージアムショップ : 16店舗、  
書店 : 9店舗、大学生協 : 13店舗、  
WEB : 2店舗 (Amazon、エデュ・タウン)、  
計40店舗 (平成28年3月31日現在)

### 2. 科学技術に関する広報啓発並びに人材の育成

#### 2-1. 科学館の運営及び運営支援

(1) 新潟県立自然科学館の指定管理者（民間事業者との共同事業）として、平成27年4月から平成32年3月まで5年間の管理・運営業務を受託した。

平成27年度来館者実績 : 261,894人

(2) 横浜こども科学館に対する運営協力を27年度末で終了した。

(3) 神戸市立青少年科学館の指定管理者（民間事業者との共同事業で期間は平成26年4月1日～平成30年3月31日の4年間）として、一部展示の更新、特別展、実験教室の開催ほかを実施した。

平成27年度来館者実績 : 360,505人

#### 2-2. 展示・映像コンテンツの企画・開発及び提供

(1) 展示コンテンツの開発

公益財団法人日本財団の平成 27 年度助成事業に採択された、科学館のプラネタリウムを活用した映像企画「くじらが星に還る海」が完成し、神戸市青少年科学館、新潟県立自然科学館での上映を開始した。

(2) 展示・映像コンテンツの提供

- ① 「こわいもの展」が愛媛県立総合科学博物館（4/18～6/21）、青森県立三沢航空科学館（7/18～9/27）で実施された。
- ② 「海底二万里の世界展」（平成 25 年夏に新潟県立自然科学館で実施）が沖縄県立博物館・美術館（7/18～8/30）で実施された。
- ③ 「サイエンスクエスト」が栃木県子ども総合科学館（7/18～8/30）で実施された。

(3) 自主企画・制作コンテンツのプロモート

「サイエンスクエスト」の山梨県立科学館（7/16～8/31）での実施が決定した。

3. 科学技術普及・利用に係る広報・支援及び施設・展示の企画・立案

(1) 科学技術関連団体の広報活動支援

日本科学オリンピック推進委員会が開催する各種国際科学オリンピックの情報及び地学の日本委員会事務局への支援業務を継続して実施した。

(2) 団体・企業の広報活動支援（収益事業）

団体からの依頼により、大阪科学技術館の団体展示ブースの企画・実施事業支援を行った。

4. その他この法人の目的を達成するために必要な事業

団体・企業の持つ科学技術の普及に係る商材の利用促進を目的とした広報に関わる活動支援及び企業と共同で科学コンテンツ・グッズの開発をスタートさせた。

以上